

# なぎの木のように

豊橋市立石巻小学校  
校長だより No.3  
令和5年 7月 7日

「やってみることでよくわかる」 体験をとおして学んだことは、身につき、忘れにくい

学校では、話を聞いたり教科書を使用したりする学習だけでなく、体験的な学習を通して学ぶことを大事にしています。社会や自然、人と関わりながら体験を積み重ねることで、コミュニケーション能力や自立心、主体性、他者と協働する能力、対象から学ぶ知識などが育まれると考えます。

「聞いたことは、忘れる。見たことは、覚える。やったことは、わかる。」とよく言われます。見聞きしたことは、わかっているようでも、いざやってみると失敗したり思うようにできなかつたりすることがあります。やってみることで自分事になり、試行錯誤しながら力をつけていきます。そこで今回は、1学期の子どもの体験の様子を紹介します。



先生にインタビューしたよ



もうすぐ泳げそうだよ



1年生に教えてあげよう



カエルを見つけたよ



小さい柿の実がついている



よい実を残して摘果をするよ



もう田植えが終わっているね



東頭神社に行ってみたよ



神野新田の堤防と護岸観音像



顕微鏡だと大きく見えるね



砂浜でめざせピラミッド



火加減はどうか



キャンプファイヤーでの光の舞



直接圧迫止血に挑戦



給水車から水をもらおう



水消火器を使ってみたよ

もうすぐ夏休みです。近所を散歩して虫や植物を見つける、家族で料理をしたり何かを作ったりするなど、身近なことでも体験できることはたくさんあります。ゆとりある時間を利用して、家庭や地域、自然の中で楽しみながら多くの体験ができるといいですね。